

基本設計検討市民懇談会_市民意見についての考え方について（平成 29 年 2 月 26 日開催）

平成 29 年 2 月 26 日_市民意見の概要		市の考え方・対応の内容
周辺道路	駅前自動車の混雑が心配である。 野洲小学校通学路の安全を確保してほしい。 野洲中央線の丁字路に信号を付けてほしい。	市民病院への車両動線は下水門線としているため、駅前の混雑には影響しない。また、病院への交通集中の時間帯は 8:40 頃からであることから、駅前の混雑や小学校の通学時間との重複はないと考える。信号設置については、実際の交通状況を勘案して検討するもので、開院後の状況に応じては速やかに検討する。
車寄せ	車椅子等が乗り降りしやすいスペースを確保し、付き添って病院内に入れるようにしてほしい。 また、車寄せ付近で送迎車を待つためのスペースを検討してほしい。	車いす置場や降乗に必要なスペースを設け、可能な限りゆとりのある設計とした。 車寄せ付近には一時駐車スペースを設定した。また、車寄せが見通せる屋内に、車待ち用のスペースを計画した。
駅コミ動線	病院への交通網になるコミュニティバスを便利にしてほしい。 バス停や駅から雨に濡れずに病院へ入れるようにしてほしい。	コミバスについては、今年度実施している運行見直し業務の中で検討している。 将来的には駅舎からの直接接続を想定して、JR と情報共有を図り実現をめざす。バス停からの動線の雨除けについては関係者と協議し設置に向けて検討する。
立体駐車場構造	傾斜はゆるやかに、運転・駐車しやすいよう配慮してほしい。 高齢者や身体の不自由な方用の敷地内駐車場を検討してほしい。	利用者に優しい車両動線となるよう実施設計にて検討する。その際、通路、スロープや柱など明るく、視認性に配慮した色彩計画とする。 病院の車寄せ付近には一時駐車スペースを若干数設置するが、敷地内駐車場については、立体駐車場の 1 階及び 2 階に「思いやり駐車区画」を必要数設ける方向であり、これで対応できると考えている。

平成 29 年 2 月 26 日_市民意見の概要		市の考え方・対応の内容
	立体駐車場の 1 階から平面的に病院に入る人の安全を確保してほしい。(横断歩道など)	駐車場関係車両と人との動線を分けるとともに、下水門線について車両通行を抑制する路面デザインや横断歩道の設置について公安委員会等協議し実現するよう努める。
立体 その他 駐車場	立体駐車場の駐車台数 250 台で足りるか。 駅前 of 立体駐車場であるため、一般の利用者が利用して病院利用者が駐車できなくなるのではないか。	雨天時の利用増も見込んで一定のゆとりを持って設定した台数である。また近隣病院の規模を斟酌しても、必要かつ十分な台数であると考えている。 来院者の優先性を確保するため、平日午前中の駐車料金設定を工夫すること等で対応が可能と考えている。
院内 利便 施設	飲食できるスペースを十分に確保してほしい。	院内にコンビニを設置し、イートインコーナーを計画した。 また、同時期に接続して開設される「交流/商業施設」においても飲食関係の出店の可能性は十分あると見込んでいる。
	託児所や子供を預けられるスペースを確保してほしい。	「交流/商業施設」内に子育て支援センター機能を検討しており、託児機能の可能性についても調査して検討する。
外来 ゾーン 等	1 階玄関の「ヘルスケアパーク」と 2 階の外来フロアを繋ぐのはエスカレータがよい。(階段とエスカレータ両方ほしい。)	エスカレータ（上下）を設置する計画とした。
	高齢者は自動受付機や自動精算機などの機械の操作が難しいので有人受付を利用したい。	総合受付横に有人の支払窓口も設置するよう、人員計画において検討する。

平成 29 年 2 月 26 日_市民意見の概要		市の考え方・対応の内容
	電光掲示板など、聴覚に障がいがある方に配慮してほしい。	視認性の高いサイン計画や表示パネル、また内装の色彩など、障がいがある方や高齢者にやさしく分かりやすい仕様とする。
	予約制の徹底をはかってほしい。	新しい受付会計システムを導入し、機能の向上を図る。
病室	終末期対応などの実態から、病室は個室が多いほうが良い。各個室にトイレと洗面所が必要。	実際の運用状況を踏まえ、開院後も改修可能なように計画している。また、現野洲病院での志向性、最近の傾向を勘案して実施設計段階においても再度検討する。
外観	外壁は暖色(白系、ベージュ、薄いオレンジ色等)が良い。極力シンプルで、明るいイメージの病院を望む。 屋上を緑化してはどうか。散歩が出来てよい。	景観形成の重点地区であるため、街並みとの調和する外観、色彩等に配慮する。 屋上緑化については、適正管理の困難性から特に庭園等は設置しない。ただし、入院患者が適度に外気に触れられるよう、屋上の運用については、開院後検討する。
地域包括・健康センター	地域包括システム、在宅医療を推進してほしい。 健康セミナー等を行って、みんなが行きたくなる病院になることを望む。	患者サポートセンターを設置し、地域連携、在宅医療支援を行う。 予防医療、健康情報発信などを、1 階のヘルスケアパークや「けんこうホール」を中心に推進できるよう、市の健康づくり部門とともに運用方法を検討する。

平成 29 年 2 月 26 日_市民意見の概要		市の考え方・対応の内容
診療科	耳鼻科をなくす理由は。	公的な病院が赤字化した理由として、すべての診療科を揃えることで経営に悩むということが挙げられるため、野洲市民病院の計画としては、地域のニーズに合わせた 9 診療科としている。耳鼻科については、基本計画において市内の開業医（2 院）に医療を担っていただく考えである。
	心療内科を設置はしないのか。周辺病院では守山市民病院、大津市民病院以外では心療内科が設置されている。	本市の場合、精神科医療の領域になれば湖南病院があるほか、心療内科は、大変熱心な先生が確保できないと成り立たない診療科である、開院の段階での設置は考えていない。
	脳外科を設置しないのか。	脳外科が行うようなリスクの高い手術を行う高度医療は医療機能分担による野洲市民病院の性格には馴染まない。基本計画の段階で設置しないとする専門家の判断を尊重した結果である。
	物忘れ外来を設置してほしい。認知症の患者の入院治療についても考慮ほしい。	専門外来の決定については、確保できる医師によって変わってくる。ニーズが高い重要な診療科であるという認識をしており、検討していきたい。